

公立大学法人大阪府立大学

平成24事業年度の業務実績に関する評価結果

平成25年8月

大阪府公立大学法人大阪府立大学評価委員会

目 次

1 公立大学法人大阪府立大学の年度評価の考え方	1 ページ
2 全体評価	2 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
<全体評価にあたって考慮した事項>	
① 公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標	
② 平成24年度における重点的な取組	
③ 特筆すべき取組	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3 大項目評価	
3-1 「教育研究等の質の向上」に関する大項目評価	4 ページ
(1) 進捗状況の確認結果	
(2) 地域貢献及び国際化に関する評価結果と判断理由	
(3) 進捗状況の確認や評価にあたっての意見、指摘等	
3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価	6 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-3 「財務内容の改善」に関する大項目評価	8 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-4 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価	9 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	
3-5 「その他の業務運営」に関する大項目評価	10 ページ
(1) 評価結果と判断理由	
(2) 評価にあたっての意見、指摘等	

1 公立大学法人大阪府立大学の年度評価の考え方

- 本評価委員会においては、「公立大学法人大阪府立大学にかかる年度評価の考え方について」（平成25年7月30日決定）に基づき、次のとおり、平成24事業年度の業務の実績に関する評価を行った。

<評価の基本方針>

評価にあたっては、国立大学法人評価委員会における評価方法等を踏まえつつ、特に、法人化を契機とする大学改革の実現、教育研究の特性への配慮、公立大学としての地域における役割と府民への説明責任の3点を考慮した。

<評価の方法>

評価は「項目別評価」と「全体評価」により行う。

「項目別評価」では、法人による自己評価・自己点検の結果をもとに、業務実績に関する事実確認、法人からのヒアリング等を通じて年度計画の進捗状況を確認するとともに、法人の自己評価・自己点検の妥当性の検証と評価を行う。また、「全体評価」では、「項目別評価」の結果等を踏まえつつ、中期計画等の進捗状況全体について総合的な評価を行う。

（項目別評価の具体的方法）

項目別評価は、①法人による小項目ごとの自己評価、②評価委員会による小項目評価、③評価委員会による大項目評価の手順で行う。

①法人小項目自己評価

実績報告書の小項目ごとにI～Vの5段階で自己評価を行う。

②委員会小項目評価

法人の自己評価、目標設定の妥当性などを総合的に検証し、小項目ごとにI～Vの5段階による評価を行う。

③委員会大項目評価

評価委員会における小項目評価の結果、特記事項の記載内容等を考慮し、大項目ごとの進捗状況について、S・A～Dの5段階による評価を行う。

（全体評価の具体的方法）

評価委員会において、項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の進捗状況について評価を行う。

<「教育研究等の質の向上」に関する項目の取り扱い>

「項目別評価」のうち、「教育研究等の質の向上」（「地域貢献等に関する項目」及び「国際化に関する項目」を除く）に関する項目については、教育研究の特性への配慮から、その専門的な評価については「認証評価機関による評価」を踏まえることとした。したがって、本評価委員会としては専門的な観点からの評価は行わず、進捗状況の確認にとどめた（地方独立行政法人法第79条参照）。

- ただし、第2期中期目標期間が開始する平成23事業年度より、「教育研究等の質の向上」の項目のうち「地域貢献等に関する項目」及び「国際化に関する項目」については、進捗状況の確認にとどまらず、評価を行うこととした。

2 全体評価

(1) 評価結果と判断理由

- 平成24事業年度の業務実績に関する評価については、4ページ以降に示すように、大項目のうち、「教育研究等の質の向上（地域貢献及び国際化の項目のみ）」、「財務内容の改善」、「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」及び「その他の業務運営」の4つの項目についてはA評価（「計画どおり」進捗している）、「業務運営の改善及び効率化」の項目についてはB評価が妥当であると判断した。また、「教育研究等の質の向上」全体についても「計画どおり」進捗していることを確認した。
- 特に、大阪の産業活性化への貢献や優秀な人材の育成など、公立大学の重要な使命の一つである地域貢献が前年度に引き続いて積極的に取り組まれていること、工業高等専門学校における研究成果の地域への還元について、前年度を大きく上回る活動を展開していることは評価したい。
- また、教員業績評価制度については、本格実施には至っていないものの実現に向けた努力は認められた。
- 以上の大項目評価の結果に加え、公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標、平成24年度の重点的な取組等を総合的に評価し、平成24事業年度の業務実績については、「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」とした。
- なお、法人の取組を俯瞰して、本評価委員会として次の意見を付記する。
 - ・ 初年次ゼミナールや学域共通科目（1年次）の開講、文理融合の体系的なカリキュラムなど、学域・学類再編後の初年度が順調にスタートしたと認められる。教育研究等の質の向上と法人運営の改善や効率化にバランスよく取り組み、特に地域貢献の積極的な推進や外部研究資金の獲得について引き続き努力している点は全体として高く評価できる。

教育研究等の 質の向上 (4ページ)	「計画どおり」進捗していることを確認 ※なお、地域貢献及び国際化の項目については、A評価に該当する				
	S	A	B	C	D
業務運営の 改善及び効率化 (6ページ)	特筆すべき 進捗状況	計画どおり	おおむね 計画どおり	やや遅れている	重大な 改善事項あり
財務内容の改善 (8ページ)	特筆すべき 進捗状況	計画どおり	おおむね 計画どおり	やや遅れている	重大な 改善事項あり
自己点検・評価 及び情報提供 (9ページ)	特筆すべき 進捗状況	計画どおり	おおむね 計画どおり	やや遅れている	重大な 改善事項あり
その他の業務運営 (10ページ)	特筆すべき 進捗状況	計画どおり	おおむね 計画どおり	やや遅れている	重大な 改善事項あり

法人の基本的な目標、平成24年度の重点的な取組等を
総合的に考慮して・・・

<全体評価の評価結果>

「全体としておおむね年度計画及び中期計画のとおりに進捗している」

＜全体評価にあたって考慮した事項＞

① 公立大学法人大阪府立大学の基本的な目標

公立大学法人大阪府立大学は、従来から広い分野の総合的な知識と深い専門的学術を教授研究し、豊かな人間性と高い知性を備え、応用力や実践力に富む有為な人材の育成を行うとともに、その研究成果の社会への還元を図り、もって地域社会及び国際社会の発展に寄与することを目的としている。この目的に加え、新たな公立大学法人大阪府立大学としての改革を着実に推進するための取組を行う。

② 平成24年度における重点的な取組

- ・ 4学域13学類の再編
- ・ 初年次ゼミナールの本格的展開
- ・ 学習ポートフォリオの運用開始をはじめとする教育研究環境の整備、充実
- ・ 公立3大学産業牽引型ドクター育成プログラム等若手研究人材の育成の強化
- ・ リサーチ・アドミニストレーション（URA）センター設置による産業活性化への貢献や体制強化
- ・ サテライト教室等の社会人教育の展開
- ・ 工業高等専門学校研究成果を地域へ積極的に還元

③ 特筆すべき取組

項目別評価の結果をもとに、特筆すべき取組について、次のとおり確認した。

- ・ 4学域13学類に再編し、ニーズに柔軟に対応できる教育体制を構築した。
- ・ 本格的に展開した初年次ゼミナールの受講後アンケートにおいて、高い割合で好結果を得た。
- ・ ポストドクターや博士後期課程学生の人材育成を行うとともに、産学協同育成の成果を他大学へ波及させるための体制も整備した。
- ・ 工業高等専門学校では、地域の小中学生への理科・技術教育活動についてさらに積極的に展開した。

（2）評価にあたっての意見、指摘等

- 大学や工業高等専門学校が有する研究成果を、将来の日本の担い手である小中学生や社会人等に対する教育活動のさらなる充実に役立てることにより、一層の社会貢献を果たしていくことが望まれる。
- 産業界など社会の要請に応えるポストドクターや博士後期課程学生の人材育成について、今後とも充実・強化していくことが求められる。

3-1 「教育研究等の質の向上」に関する大項目評価

(1) 進捗状況の確認結果

○ 「教育研究等の質の向上」の地域貢献及び国際化以外に関する11の小項目について進捗状況をチェックしたところ、教育、研究いずれの分野においても、全体的に計画どおり進捗しており、教育研究活動が着実に進められるとともに、その質的向上が図られていることを確認した。特に、次の点については特筆すべき進捗があったことを確認した。

- ・ 4学域・13学類体制導入のもと能動的な学習姿勢への転換を促すため、学域混合の初年次ゼミナールを本格的に開講。受講後アンケート（5つの質問項目）で8割を超える好結果を得る等、短期間の準備にも関わらず教育体制の再編が順調にスタートしたと認められる。
- ・ 学術研究活動において、学術研究団体等から研究の業績を認められ賞を受けた者が増加。研究の質的向上に努めていることが認められる。

(2) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 大阪府立大学では、民間企業等との共同研究・受託研究の積極的な実施や、研究戦略企画・推進機能等を有するリサーチ・アドミニストレーション（URA）センターの設置、高い水準での専門職種の国家試験合格率の維持等、大阪の産業活性化への貢献や体制強化、優秀な人材の育成など公立大学の重要な使命の一つである地域貢献に努めている。また、海外からの留学生受入数の拡大をはじめ国際交流についても着実に推進している。さらに、工業高等専門学校では、出前授業・公開講座により地域の小中学生への理科・技術教育活動を積極的に展開する等、地域貢献を強化している。以上のような事項を中心に総合的に評価すると、全体として計画通り進められていると認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果> 小項目評価結果P2～P33参照

4項目すべてが小項目評価のⅢまたはⅣに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	III	II	I
	計画を大幅に上回って実施している	計画を上回って実施している	計画を順調に実施している	計画を十分に実施できていない	計画を大幅に下回っている
地域貢献ナンバーワン大学 (35)～(43)	—	★	—	—	—
諸機関との連携の強化 (44)～(53)	—	—	★	—	—
国際化 (54)～(56)	—	—	★	—	—
【府大高専】地域貢献等 (77)～(80)	—	★	—	—	—

<大項目評価にあたって考慮した事項>

特筆すべき小項目評価

○ 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施）の項目は次のとおりであった（（ ）は項目番号）。

（35）～（43）地域貢献ナンバーワン大学への取組

民間企業等との共同研究・受託研究件数の目標を上回る実績や、地域イノベーション支援等を目的とするURAセンターの設置など大阪の産業活性化への貢献や体制強化を図ったとともに、専門職種に関する国家試験の高い合格率を維持し、社会に貢献する人材育成を行っていることは高く評価できる。

さらに、積極的に社会人教育や公開講座を展開するなど、地域の教育拠点としての役割を果たしていることから小項目全体として高く評価した。

（77）～（80）府大高専の地域貢献等に関する目標

共同研究・受託研究の件数をはじめ出前授業や公開講座の開催数も昨年度より大きく増加しており、府大高専の知識や技術の社会への還元、積極的な地域への貢献が認められる。大阪府立大学だけでなく近隣の大学や商工会議所等とも連携を深めている点からも高く評価した。

その他

○（54）～（56）国際化に関する目標

国際事情により学生の海外派遣数は減少したものの留学生の受け入れはほぼ目標を達成しており、地域の国際交流クラブと連携した「レベル別日本語講座」の受講者数も大幅に増加している。また、「外国人招へい教員事業」や「海外留学支援事業」の実績も伸びていることから、今後も国際化の推進が期待されることは評価できる。

（3）進捗状況の確認や評価にあたっての意見、指摘等

- 初年次ゼミナールについて、受講生の評価も良好であり、教育改革の取組の一つとして順調な進捗が認められた。
- URAセンターの設置に関しては、設置の趣旨が十分に果たされるようその活性化に努めるとともに、活動内容についての情報発信を強化されたい。
- 民間企業等との共同研究・受託研究を多く行っていることは評価でき、引き続き積極的な取組が望まれる。
- 留学生の受け入れ数はほぼ目標を達成しており評価できるが、今後、さらに多様な国からの留学生を受け入れに努力されたい。

3-2 「業務運営の改善及び効率化」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、C評価（「やや遅れている」）となる。
- 民間的発想やノウハウを法人経営に積極的に取り入れ、優れた人材確保のため府大独自のテニユア・トラック制度を構築する等、組織の改革・改善について年度計画を着実に実施していると認められる。教員業績評価制度については本格実施には至らなかったものの、難易度の高い目標に向け努力していることは評価できる。以上を総合的に評価すると、全体としてはおおむね計画どおりの進捗が認められる。
- これらの点から、大項目評価としては、B評価（「おおむね計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果> 小項目評価結果P34~P36参照

5項目のうち4項目が小項目評価のⅢ、1項目が小項目評価のⅡに該当し、Ⅲ~Ⅴの項目が4/5（8割）となることから、C評価（「やや遅れている」）に該当する。

	V	Ⅳ	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
法人組織の改革 (81)~(82)	—	—	★	—	—
教職員組織の運営の改善 (83)~(87)	—	—	—	★	—
教員組織の改革(88)	—	—	★	—	—
事務組織の改革(89)	—	—	★	—	—
コンプライアンス・リスク マネジメントの強化(91)	—	—	★	—	—

<大項目評価にあたって考慮した事項>

今後の課題となる小項目評価

○ 小項目評価がⅡ（計画を十分に実施できていない）の項目は次のとおりであった（（ ）は項目番号）。

(83)~(87) 教職員組織の運営の改善に関する目標

教員業績評価制度について、試行的に運用したものの処遇への反映は遅れており、また、教員活動情報データベースシステムについても未改修であることから、計画を十分に実施できていないと判断した。

なお、難易度の高い教員実績評価制度の処遇への反映に向けた努力は認められることから、今後の展開を見守りたい。

その他

- 法人経営に民間的発想やノウハウを積極的に取り入れるため、理事長・理事の半数を外部から登用した。
- 優れた人材確保のため、文部科学省補助事業であるテニユア・トラック普及定着事業に加え、制度の全学的展開を推進するために府大独自のテニユア・トラック制度を構築した（運用開始は平成25年度から）。
- 法人職員のプロフェッショナル化・能力開発を推進するため、他大学との相互職員派遣を実施している。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 教員業績評価制度の処遇への反映という非常に難易度の高い目標に向け努力していることは評価できる。
- 教員業績評価制度について、特に研究は単年度で成果を出すのが難しい側面もあることから、今後とも実施にあたってはこの点を工夫されたい。

3-3 「財務内容の改善」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 外部資金獲得件数・額とも前年度を超える実績を残したことをはじめ、特に法人寄付の獲得に努力した結果寄付金収入が大幅に増加するなど、自主財源の獲得に努めている。また、獣医臨床センター診療報酬や公開講座受講料、固定資産貸付料の適正化を図るなど、全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果> 小項目評価結果P37~P38参照

項目のすべてが小項目評価のⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V	IV	Ⅲ	Ⅱ	I
	計画を大幅に 上回って 実施している	計画を 上回って実施 している	計画を順調に 実施している	計画を十分に 実施できて いない	計画を大幅に 下回っている
経常経費の抑制 (92)~(94)	—	—	★	—	—
自主財源捻出(95)	—	—	★	—	—
資産の運用管理の改善 (96)~(97)	—	—	★	—	—
学生納付金(98)	—	—	★	—	—
運営費交付金(99)	—	—	★	—	—

<大項目評価にあたって考慮した事項>

- 企業に個別訪問を行う等法人寄付の獲得に努力し、寄付金収入が大幅に増加した。また、公開講座の受講料の一部を見直し、受講料収入も増加した。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 自律的な運営の確立に向けて、様々な方法により自己収入の増加に努力している点は評価できる。

3-4 「自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 自己点検・評価の結果を改善に活かすため、改善計画を作成し全学で取り組んだほか、創基130年事業を中核とした戦略的広報の実施や府大学術情報リポジトリの充実など、大阪府立大学の存在と活動について学内外への発信に努めており、全体として計画どおり進捗していると認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果> 小項目評価結果P39~P40参照

小項目は1項目のみであり、評価はⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V 計画を大幅に 上回って 実施している	IV 計画を 上回って実施 している	Ⅲ 計画を順調に 実施している	Ⅱ 計画を十分に 実施できて いない	I 計画を大幅に 下回っている
自己点検・評価及び情報提供 (100)~(105)	—	—	★	—	—

<大項目評価にあたって考慮した事項>

- 創基130年をブランド構築の好機として、戦略的な広報を展開している。

(2) 評価にあたっての意見、指摘等

- 受験生やその保護者へ、より具体的で明確な大阪府立大学のアイデンティティが伝わるよう、ホームページをはじめとした情報発信について更なる工夫が求められる。
- 「データで見る公立大学法人大阪府立大学」という定量的な現状把握や効果検証が可能となる資料を充実させ、府民向けにわかりやすい情報公開を進めている姿勢は高く評価できる。

3-5 「その他業務運営」に関する大項目評価

(1) 評価結果と判断理由

- 小項目評価の集計結果では、A評価（「計画どおり」進捗している）である。
- 教育研究環境において、学舎の改修整備やエコ・キャンパスへの取組を計画的に実施するとともに、遺伝子組換え実験・動物実験等に係る教育訓練をはじめとする安全管理に関する措置など、全体として計画どおりの進捗が認められる。
- 以上により、大項目評価としては、A評価（「計画どおり」進捗している）が妥当であると判断した。

評価結果	S 特筆すべき 進捗状況	A 計画どおり	B おおむね 計画どおり	C やや遅れている	D 重大な 改善事項あり
------	--------------------	------------	--------------------	--------------	--------------------

<小項目評価の集計結果> 小項目評価結果P41～P42参照

小項目は1項目のみであり、評価はⅢに該当するため、A評価（「計画どおり」に進捗している）に該当する。

	V 計画を大幅に 上回って 実施している	IV 計画を 上回って実施 している	Ⅲ 計画を順調に 実施している	Ⅱ 計画を十分に 実施できて いない	I 計画を大幅に 下回っている
その他業務運営 (106)～(111)	—	—	★	—	—

<大項目評価にあたって考慮した事項>

- 実験装置等の省エネルギー推進ガイドラインの策定や、学生も参加した全学一斉の防災避難訓練を実施した。
- 学生が主体となり「環境報告書」を作成したことによって、エコ大学ランキングの主催団体から表彰を受けた。